

# 病害虫発生予察特殊報第4号

平成19年2月15日  
三重県病害虫防除所

本県ではこれまでかんきつ類の害虫として知られていたミカントゲジラミが、チャを加害する事例を確認しましたので特殊報として発表します。

1 病害虫名 : ミカントゲコナジラミ  
学名 : *Aleurocanthus spiniferus* (Quaintance, 1903)

2 発生確認作物名 : チャ

3 発生確認地域 : 亀山市

4 発生確認の経過

2007年2月6日に三重県科学技術振興センター農業研究部茶業研究室内試験圃場(亀山市椿世町)において、密度は低いながらも、旧葉に寄生している幼虫を確認しました。

本種は古くからカンキツ類の害虫として知られていましたが、国内においては2004年に京都府で、2006年に滋賀県、奈良県でチャへの寄生が確認されています。

現在のところ本県他地域におけるチャでの発生は確認されていませんが、今後分布の調査を行います。

5 特徴

(1) 被害の状況

チャにおける被害は、葉の吸汁加害と、排泄物によってすす病が併発することです。

(2) 形態

成虫の体長は雌で約1.3mm、雄は雌よりやや小型です。前翅は紫褐色で不整形の白紋がありますが、体表面が白粉で覆われており、概観は明るい灰色に見えます。卵は長さ約0.2mmの黄色い勾玉(まがたま)状で、短い柄があります(写真3)。幼虫は葉に固着すると、白い縁どりを持った黒い光沢のある小判型になります(写真1)。幼虫は3齢を経て蛹になります。蛹は幼虫に似ていますが、多数の黒い刺毛が目立ちます(写真1)。

(3) 生態

チャでの発生は年4回と考えられています。3齢幼虫や蛹で越冬し、成虫の発生盛期は、越冬世代が5月下旬、第1世代が7月上旬、第2世代が8月中下旬、第3世代が10月中下旬です。成虫の寿命は短く、約4日です。新葉の葉裏に産卵することが多く、孵化幼虫はあまり歩き回らないので、群生します(写真1,2)。

6 防除対策

(1) 若い幼虫及び卵は小さく、密度が低いときは樹冠内部に寄生していることが多いので、早期発見は非常に困難です。成虫の飛翔が目立つようになったり、すす病が併発してはじめて気がつくことが多い害虫です。

(2) 放任茶園は発生源になる可能性が高いので、発生拡大を防ぐためには、定期的な茶園の観察と放任茶園の適正な管理が必要です。

(3) 茶園の風通しを良くすること、寄生葉を除去することが耕種的防除として考えられます。葉でのみ生活するので、多発した場合には、整せん枝の時期や深さを工夫することで、効果的に寄生葉を除去することができ、次世代の発生を少なくすることができると考えられます。

(4) 薬剤で防除する場合は、下記の登録農薬を使用します。

通称の農薬名称	農薬の種類名	希釈倍数	毒劇	魚毒性	使用時期	本剤の使用回数	成分の総使用回数	散布液量
アブロード水和剤	プロフェジン水和剤	1000倍	普		摘採14日前まで	2回以内	2回以内	
ハチハチ乳剤	トルフェンピラド乳剤	1000倍	劇	C類	摘採14日前まで	1回以内	1回以内	200～ 400L/10a

※農薬の適用内容は、平成19年2月13日現在



写真1 群生して固着している幼虫と蛹(右図の拡大)



写真2 チャ葉裏で群生している様子



写真3 卵(中央円内の黄色勾玉状のもの)

住所 三重県松阪市嬉野川北町 530

電話 0598-42-6365

FAX 0598-42-7568

URL <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>